



日语阅读

——日本人的四季生活与自然环境



冉毅 唐敏锋 编著



◆ 湖南师范大学出版社

日语阅读

——日本人的生活方式与自然环境

内 容 提 要

（此处为模糊不清的出版信息）

H369.4
65

日语阅读

——日本人的四季生活与自然环境

冉毅 唐敏锋 编著

北方工业大学图书馆



00578445

湖南师范大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语阅读:日本人的四季生活与自然环境 /冉毅编著.
—长沙:湖南师范大学出版社,2004.12
ISBN 7-81081-442-7
I.日... II.冉... III.日语—阅读教学—高等学校
—教材 IV.H369.4
中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 077267 号

日语阅读——日本人的四季生活与自然环境

冉毅 唐敏锋 编著

◇责任编辑:何海龙 黄影飞

◇责任校对:唐敏锋

◇出版发行:湖南师范大学出版社

地址/长沙市岳麓山 邮编/410081

电话/0731.8853867 8872751 传真/0731.8872636

网址/www.hunnu.edu.cn/press

◇经销:湖南省新华书店

◇印刷:长沙华中印刷厂

◇开本:670×960 1/16

◇印张:21.25

◇字数:323千字

◇版次:2005年1月第1版 2005年1月第1次印刷

◇印数:1—1500册

◇书号:ISBN 7-81081-442-7/H·040

◇定价:28.00元

前 言

《日语阅读——日本人的四季生活与自然环境》是为高校日语专业学生编写的日语阅读教材。可供专业日语专科、本科二年级以上的学生阅读。许多学生很快学会了基础日语，但对现今日本人的生活习惯却十分陌生。单纯的语言本身只是一个基础技能，以“语言为基础，文化为动力”，习得语言、修养素质是笔者的教学模式，也是笔者竭力提倡的方法。了解所学语言的文化背景，尤其是所学语言的国度里生活着的人们的习俗、风情、文化生活才能更好地消化语言，所学语言的应用才能真正达到理想的效果。近年来，国内出版的介绍日本风情和日本人风俗习惯等方面的书，对于了解日本都是很好的工具书。但笔者多年的教学中，最深切地感到，缺乏一本较为完整地反映日本人生活习惯并把握日本人印象以及他们的生活环境的书。本书是基于这一考虑编著而成，共分为四个单元。

第一单元详细地介绍了日本人一年四季的传统祭典以及由此而形成的生活习惯、习俗，质朴而实在。通过阅读，可以在轻松愉快中了解他们一年四季、春夏秋冬的生活和日本的风土人情，有助于今后在与他们的交往中消除误区，达到最佳的沟通效果。

第二单元收集了描述日本人的衣食住行及其特征的小文章并附有会话和组句练习，文章通俗易懂，对于了解日本人的行为举止、民族文化极有帮助。纵使你还未涉足日本本土，通过这些阅读，也能使你走近日本文化，逐步加深日本文化的修养，无疑语言能力也得到了锻炼。

第三单元概略地介绍了日本人的生活环境以及日本的自然经

济实像，包括著名的风景名胜。从西南到东北，通过阅读，仿佛亲临实景。虽然是在书本上“走马观花”，但日本的四季分明，土地肥沃，山脊陡峭，河川湍急，却不乏秀丽优美的景致也会在你的脑海中留下印象。那里的人们和我们一样，勤劳、智慧、勇于开拓创新。我们虽然地域阻隔，但通过这些资料的阅读，可以努力实现相互的沟通。

第四单元以日本近代文学内容为主线，包含部分政治、文化、社会、历史等内容的问题练习，附上答案，方便高年级的学生广泛阅读。

本书内容由阅读文章、提问、会话和词句练习构成，特点在于一书在手便能涉猎上述三个领域，获得许多知识的同时又能达到语言训练目的。

本书没有注释单词的发音，要求学生（包括老师）在上课之前必须查阅，做好准备，这一过程正是语言习得的好方法。笔者历来认为阅读教材的编写，如果注释太详细，学习时只是朗读一下，“蜻蜓点水”而过，是最不可取的方法。只有通过自己仔细查阅，方能培养钻研好学的良好习惯，做到了这一点，教学相长自然水到渠成。

编者

2004年12月

目 录

第一單元 日本人の年中行事	1
第一節 一月	3
元旦（一月一日）	4
初化粧と羽子板（一月一日）	5
書き初め・初荷（一月二日）	5
御用初め（一月四日）	6
寒（小寒一月五日頃・大寒一月二十日頃）	7
七草（一月七日）	8
鏡開き（一月十一日）	9
成人の日（一月十五日）	10
藪入り（一月十六日）	11
冬の土用（一月下旬頃）	11
第二節 二月	13
節分（二月三～四日頃）	13
立春（二月五日頃）	14
針供養（二月八日）	15
建国記念の日（二月十一日）	16
聖バレンタインデー（二月十四日）	17
雨水（二月二十日頃）	18
第三節 三月	19
ひな祭り（三月三日）	20
啓蟄（三月六日頃）	21
卒業式（三月中旬）	21
春彼岸（三月十七～二十三日頃）	22
春分の日（三月二一日頃）	23
電気記念日（三月二十五日）	24
第四節 四月	26
エイプリルフール（四月一日）	27

入社式（四月上旬）	28
清明（四月五日頃）	28
花見（三月下旬頃から）	29
入学式（四月上旬）	30
花祭り（四月八日）	31
復活祭（四月十五日頃）	32
穀雨（四月二一日頃）	33
みどりの日（四月二九日）	33

第五節 五月35

メーデー（五月一日）	36
八十八夜（五月二日頃）	37
憲法記念日（五月三日）	37
ゴールデンウィーク（四月二十九日頃から）	39
端午の節句・子どもの日（五月五日）	40
立夏（五月六日頃）	41
愛鳥週間（五月十～十六日）	41
母の日（第二日曜日）	42
種痘記念日（五月十四日）	43
小満（五月二一日頃）	44

第六節 六月45

衣替え（六月一日頃から）	46
鮎漁解禁（六月一日頃から）	46
気象記念日（六月一日）	47
芒種（六月六日頃）	48
時の記念日（六月十日）	48
入梅（六月十一日頃）	49
田植え（六月初旬頃から）	50
父の日（第三日曜日）	51
夏至（六月二一日頃）	52

第七節 七月54

富士山山開き（七月一日）	55
全国安全週間（七月一～七日）	56

愛の献血運動（七月一日から）	56
半夏生（七月二日頃）	57
七夕（七月七日）	58
小暑（七月八日頃）	59
盂蘭盆会・盆（七月十五日）	60
夏の土用（七月二十日頃から）	61
海の記念日（七月二十日）	62
学生の夏休み（七月下旬から）	63
花火大会（七月下旬頃から）	64
第八節 八月	66
八朔（八月一日）	67
観光週間（八月一～七日）	68
立秋（八月七日頃）	68
旧盆（八月十五日）	69
処暑（八月二十三日頃）	70
地藏盆（八月二十三～二十四日）	71
第九節 九月	72
防災の日（九月一日）	73
二百十日、二百二十日（九月一日頃と九日頃）	74
白露（九月八日頃）	75
重陽の節句（九月九日）	76
敬老の日（九月十五日）	77
秋分の日（九月二十三日頃）と彼岸（二十日頃より）	78
動物愛護デー（九月二十三日）	79
中秋の名月（九月二十五日頃）	80
第十節 十月	82
赤い羽根共同募金運動（十月一日）	83
衣替え（十月一日）	84
寒露（十月九日頃）	84
体育の日（十月十日）	85
鉄道記念日（十月十四日）	86
新聞週間（十月二十～二十六日）	87

霜降（十月二十四日頃）	88
読書週間（十月二十七日～十一月九日）	89
ガス記念日（十月三十一日）	89
第十一節 十一月	91
灯台記念日（十一月一日）	92
狩猟解禁（十一月十五日）	92
文化の日（十一月三日）	93
立冬（十一月八日頃）	94
西の市（十一月初旬から）	95
七五三祝い（十一月十五日）	96
小雪（十一月二十三日頃）	97
勤労感謝の日（十一月二十三日）	98
第十二節 十二月	100
歳末助け合い運動（十二月一日）	101
映画館の日（十二月一日）	102
全国防火デー（十二月二日）	103
大雪（十二月七日頃）	103
年賀郵便取扱い（十二月十五日）	104
冬至（十二月二十二日頃）	105
天皇誕生日（十二月二十三日）	106
クリスマス（十二月二十五日）	107
忘年会（十二月中旬頃から）	108
官庁御用納め（十二月二十八日）	109
大晦日（十二月三十一日）	110
第二单元 日本人の生活諸相	113
第一節 容姿・容貌	115
日本人の特徴	115
【会話1】	115
【会話2】	116
第二節 性格	122
ブラウン管の彼女	122

【会話】	122
第三節 感情・心理	126
能面のような顔	126
【会話 1】	126
【会話 2】	127
第四節 家族	129
私の家族	129
【会話 1】	129
【会話 2】	130
第五節 衣服	134
服に着られる	134
【会話 1】	134
【会話 2】	135
第六節 料理・食事	137
消えた焼網と包丁	137
【会話 1】	137
【会話 2】	138
第七節 病気	140
風邪とお腹	140
【会話 1】	140
【会話 2】	141
第八節 住宅	144
和洋折衷	144
【会話 1】	144
【会話 2】	145
第九節 位置	148
鏡像	148
【会話 1】	148
【会話 2】	149
第十節 季節・時	151

季節感	151
【会話 1】	151
【会話 2】	152
第十一節 お天気	154
天気予報	154
【会話 1】	154
【会話 2】	154
第十二節 組織	157
組織の敬語	157
【会話 1】	157
【会話 2】	158
 第三單元 日本人の生活環境	161
第一節 日本の位置—アジアの東、太平洋の西	163
気候と生活	164
風俗と生活	164
第二節 九州地方	165
福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県 ...	165
第三節 中国、四国地方	169
鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 香川県 愛媛県 高知県、徳島県	169
第四節 近畿地方	173
三重県 滋賀県、和歌山県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県 ...	173
第五節 中部地方	180
新潟県 富山県 石川県 福井県 長野県 岐阜県 山梨県 静岡県 愛知県	180
第六節 関東地方	187
東京都、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、神奈川県 ...	187
第七節 東北地方	193
青森県 岩手県 秋田県 宮城県 山形県 福島県	193

第八節 北海道	197
第九節 日本の農業	201
牧畜業	202
林業	203
第十節 日本の水産業	205
第十一節 工業と鉱業	206
工業の発達	207
工業地帯	207
第十二節 交通と貿易	209
第四单元 閱讀理解習題	211
一	213
二	214
三	215
四	217
五	218
六	220
七	222
八	224
九	226
十	229
十一	231
十二	234
十三	236
十四	238
十五	241
十六	244
十七	245
十八	247
十九	249
二十	251
二十一	254

二十二		256
二十三		258
二十四		260
二十五		262
二十六		264
二十七		267
二十八		269
二十九		271
三十		273
三十一		275
三十二		278
三十三		280
三十四		282
三十五		288
三十六		292
三十七		295
三十八		298
三十九		300
四十		304
四十一		306
四十二		308
四十三		310
四十四		315
四十五		320
四十六		324

第一单元 日本人の年中行事

第一節 一月

一月は正月、あるいは睦月(むつき)ともよばれ、日本国最大の民族ドラマ・正月行事が行われる。ドラマのプロローグは神を迎える準備で開幕する。十二月十三日頃に行われる門松を山へ取りに行く「松迎え」、「煤払い」などの行事に始まり、やがて「年越し」の除夜の鐘で心を清めてクライマックスの元旦(あるいは三が日、松の内)を迎えて「初日」を拝み、「若水」を汲み、「屠蘇」と「雑煮」で新年を祝う。エピローグは「七草粥」「小正月」そして「節分」と続き、ようやく正月行事はその幕を閉じるのである。

正月が何故、そんなに大規模に行われるようになったのだろうか。昔の人の“糧”のほとんどは農業生産、なかでも稲作の収穫いかにかかっていた。つまり、豊作、凶作が直接に人の命を左右したのである。しかし、豊凶のキャスティングボードを握っているのは自然界、その自然界は神の意思によって動かされるものと信じられていた。その神を招いてもてなし、新年の豊饒を願い、祈るのが正月行事で、最も厳粛で、最も重要で、最も切実な儀式であった。

この正月行事の原形は都市住民にも浸透して盛大となり、その後の時代の政治態勢、社会構造の変化、近代文明との遭遇、精神文化の激変など歴史の波に洗われて、有る要素は消え、衰え、ある要素が生まれ、加わって変化しつつ、千数百年を生き続けているのである

☆一月

- ・一月の別名は何と言いますか。
- ・なぜ、正月はそんなに大規模に行われるのですか。
- ・民族ドラマ・正月のプロローグの神を迎える準備とはどんなことですか。
- ・今でも正月行事は行われていますか。
- ・あなたの国の正月行事はどんなことをしますか。